

事業概要【持続可能な共生社会を支えるデータ連携基盤の構築】

実施地域	神奈川県鎌倉市	実施主体	神奈川県鎌倉市
事業概要	■ 本市が進めるスマートシティの取組において、持続可能な共生社会を支えるデータ連携基盤を整備する。 ■ 一例として、実証中の[救急隊業務効率化ソリューション]、令和4年度に開始する[交通・混雑データ可視化ソリューション]から、必要なデータをデータ連携基盤上で掛け合わせ、新たなスマートシティサービスの開発（令和4年度リーディングプロジェクト）を想定 ※リーディングプロジェクトは、補助申請外の取り組みです。		

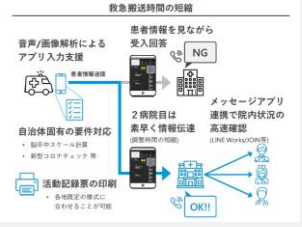
取組内容

■リーディングプロジェクトイメージ ※令和4年度 実証予定

【救急隊業務効率化ソリューション】

※実証中

AI等を用いた音声/画像解析による入力支援で救急隊の現場での患者情報収集等の効率化を図り、さらに収集したバイタルデータと共に病院側へデータ連携することで、搬送先調整の大幅な時間短縮を実現する。



救急搬送時間の短縮

音声/画像解析によるアプリ入力支援

患者情報を見ながら受入回答

メッセージアプリ連携で院内状況の迅速確認

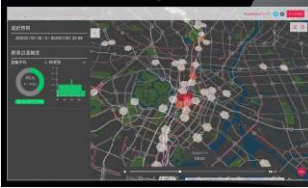
2病院目は素早く情報伝達（LINE/WhatsApp/Docomo）による搬送先調整

活動記録の印刷（各病院の形式に合わせた印刷が可能）

【交通・混雑データ可視化ソリューション】

※令和4年度実証予定

本市が令和4年度に導入する交通施策用のカメラから取得した交通データ、及び観光地混雑緩和用の人流データをデータ連携基盤内に流通させ、例えば旧鎌倉エリアに進入するルートやエリアの交通混雑度合の見える化を図る。また曜日・時間・エリアの交通混雑から、効果的な対応策（ダッシュボードによるリアル配信等を通じて観光客の行動変容の促進等）を検討する。



道路混雑情報

GPS（位置情報）

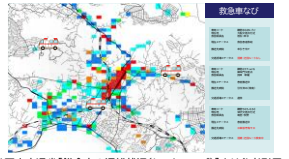
道路混雑情報

新たなスマートシティサービスの開発

【救急車両の速達性向上ソリューション】

※令和4年度以降実証予定

救急車の現在地をGPS（スマートフォン）でリアルタイムに取得し、「交通・混雑データ可視化ソリューション」とデータ連携し、AIで到着予想時刻を算出。救急隊員が最適なルートを選択し、救急車両の速達性の向上につなげる。

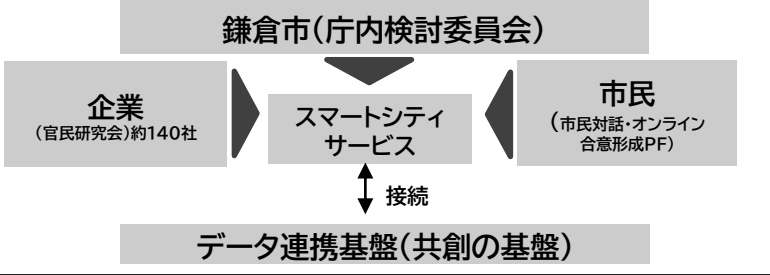


救急車の現在地

画像は国土交通省[鎌倉市の混雑状況（ヒートマップ）]より参考引用

その他、市民・観光者用の混雑・渋滞可視化ポータル作成など、スマートシティサービスの拡充を行う。

実施体制図



鎌倉市（庁内検討委員会）

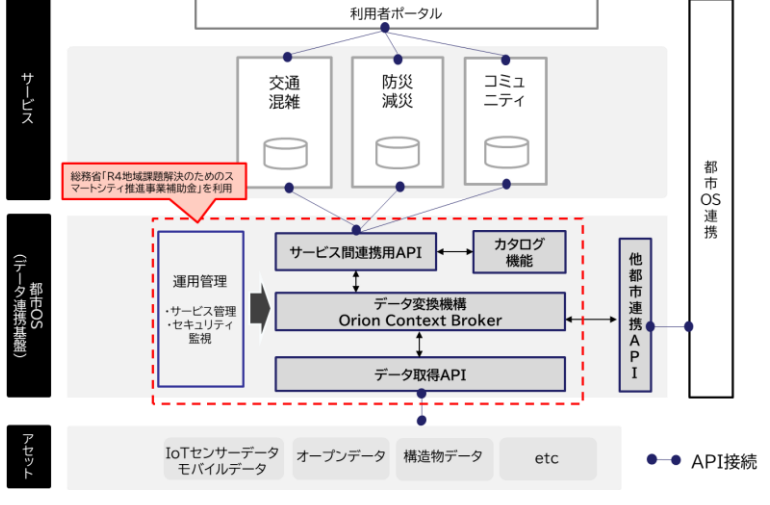
企業（官民研究会）約140社

市民（市民対話・オンライン合意形成PF）

スマートシティサービス

データ連携基盤（共創の基盤）

システム構成図



利用者ポータル

交通混雑

防災減災

コミュニティ

サービス

運用管理・サービス管理・セキュリティ監視

サービス間連携用API

カタログ機能

データ変換機構 Orion Context Broker

データ取得API

IoTセンサーデータ

オープンデータ

構造物データ

etc.

都市OS連携

他都市連携API

API接続